

3-26 伊豆半島付近の地震活動 (1980年5月～10月)

Seismic Activities in the Izu Peninsula and its Vicinity (May-October 1980)

東京大学地震研究所

地震予知移動観測室 (地震移動班)

堂平微小地震観測所

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

前報¹⁾以降, 1980年10月までの活動について報告する。

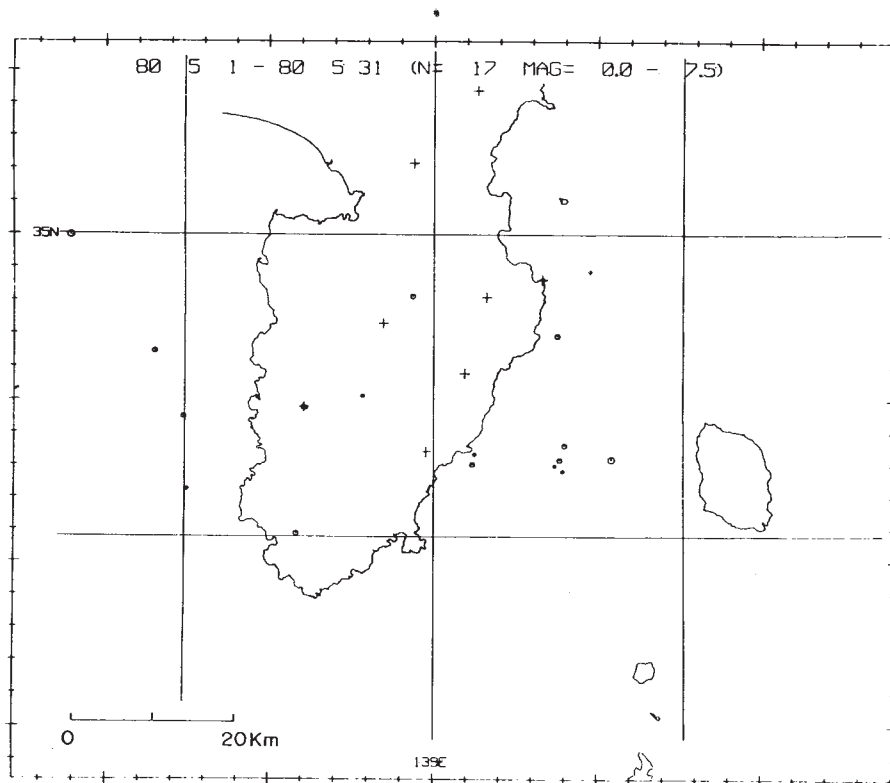
第1図～第7図は, 各月毎 (6月は2期間に分けている) の震央分布図である。5月から6月中旬までは, 伊豆半島周辺の地震活動は著しく静穏であった (第1図, 第2図)。6月23日頃から伊豆半島東方沖に群発地震活動が始まり, 集中的な活動を間歇的にくり返しながら活発化し, 6月29日16時20分にM6.7の最大地震 (1980年伊豆半島東方沖地震) が発生して, 伊豆半島東部に若干の被害を与えた。第8図に, この群発地震の大山観測点における30分毎の地震回数の変化を, 第9図に, 適当な期間別の震央分布図を示す。震央は最大地震発生前は, 川奈崎沖の狭い範囲に集中していたが, 最大地震に伴ない余震域 (長さ約20Km) が南北にのびた。さらに, その延長方向の真鶴岬付近, 伊豆大島西方および利島付近にも7月前半にかけて誘発されたとみられる活動が認められた。集中的な活動は7月末までに収まったが, その後も伊豆半島東方沖では微小地震活動が散発的に続いている。9月3日から9日頃に伊東市の直下で小規模な群発活動がみられた (第6図)。10月29日22時17分に, 伊豆半島北西部にM \approx 2.0の地震が発生した (第7図)。この付近は, 1975年秋に微小地震観測網を設置して以来活動がみられなかった場所であるので, その後の経過が注目されたが, 単発で終わった。

なお, 震央はすべて地震研究所の伊豆半島における微小地震観測網のデータ (6月26日～7月8日については, 川奈における臨時観測のデータを含む) から求めたものである。

(唐鎌・荻野・津村・神定)

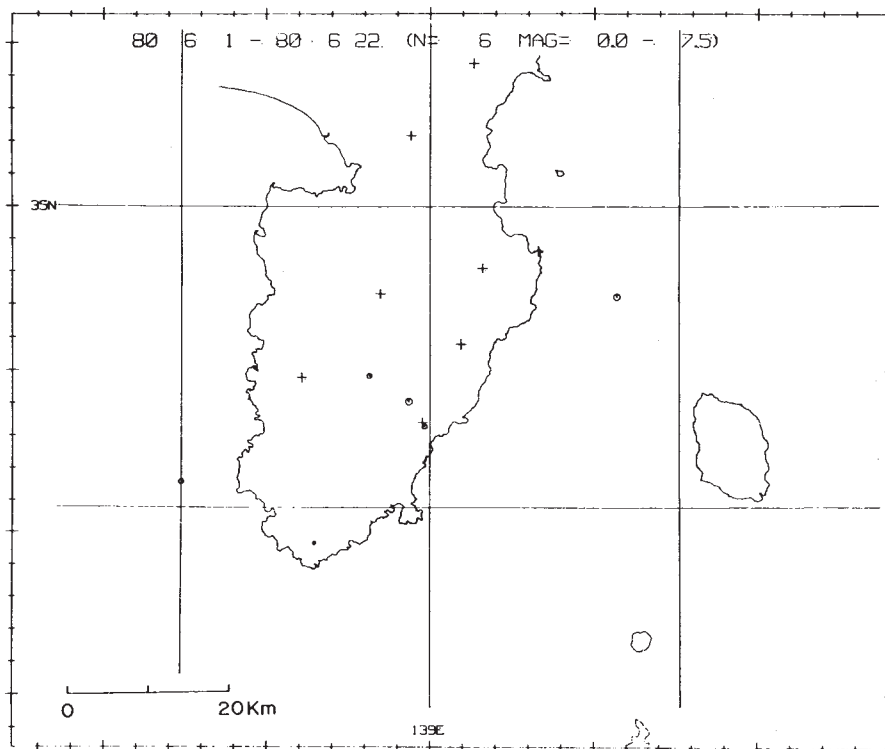
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所;伊豆半島付近の地震活動 (1979年11月～1980年4月), 連絡会報, 24 (1980), 108 - 112,



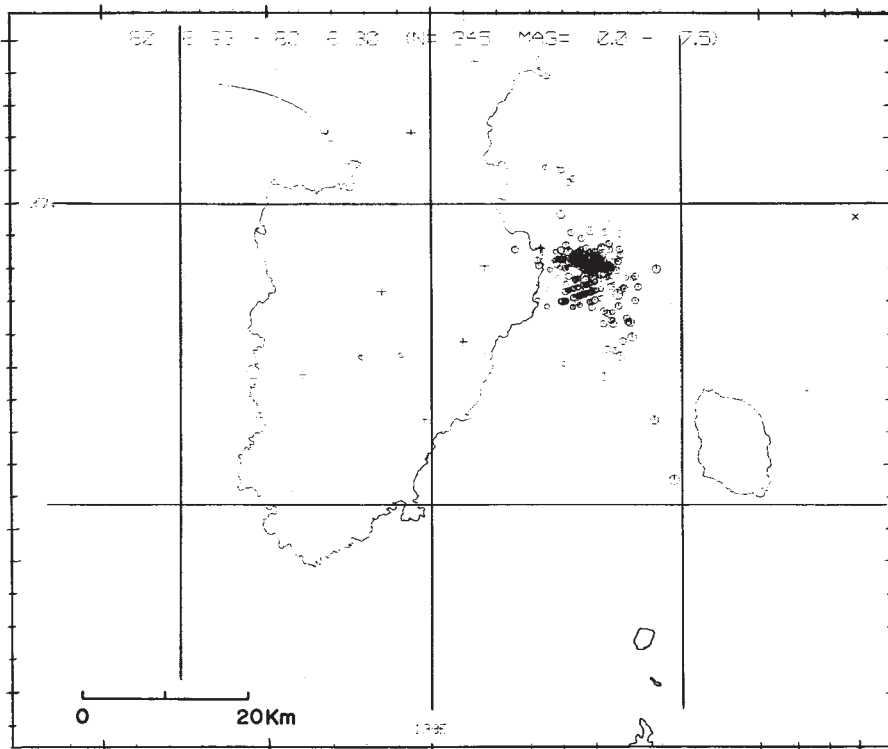
第1図 1980年5月の震央分布図

Fig. 1 Distribution of epicenters in May 1980.

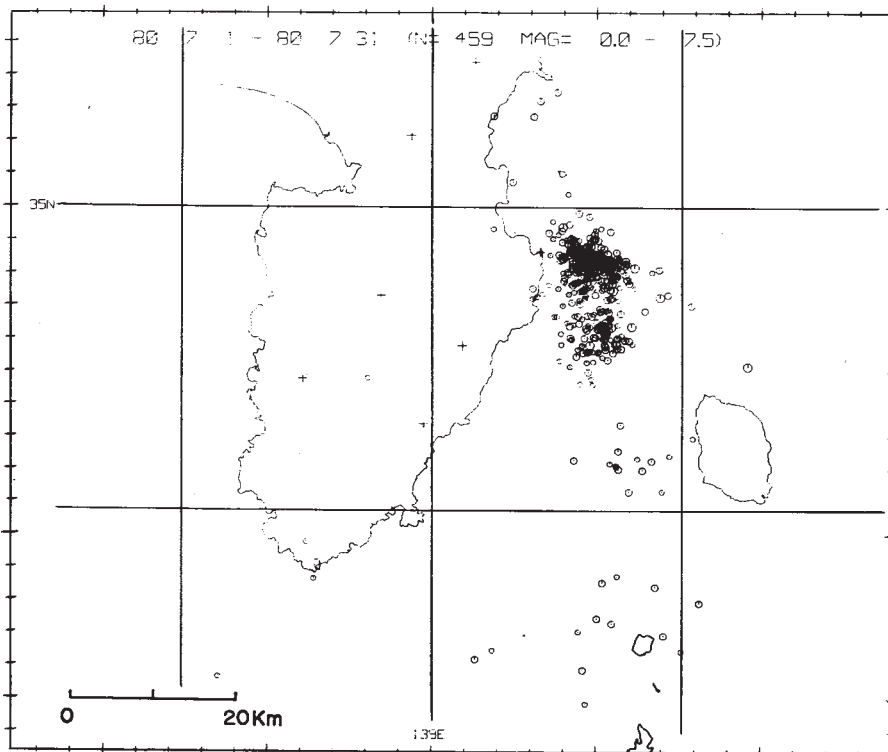


第2図 1980年6月1日 - 22日の震央分布図

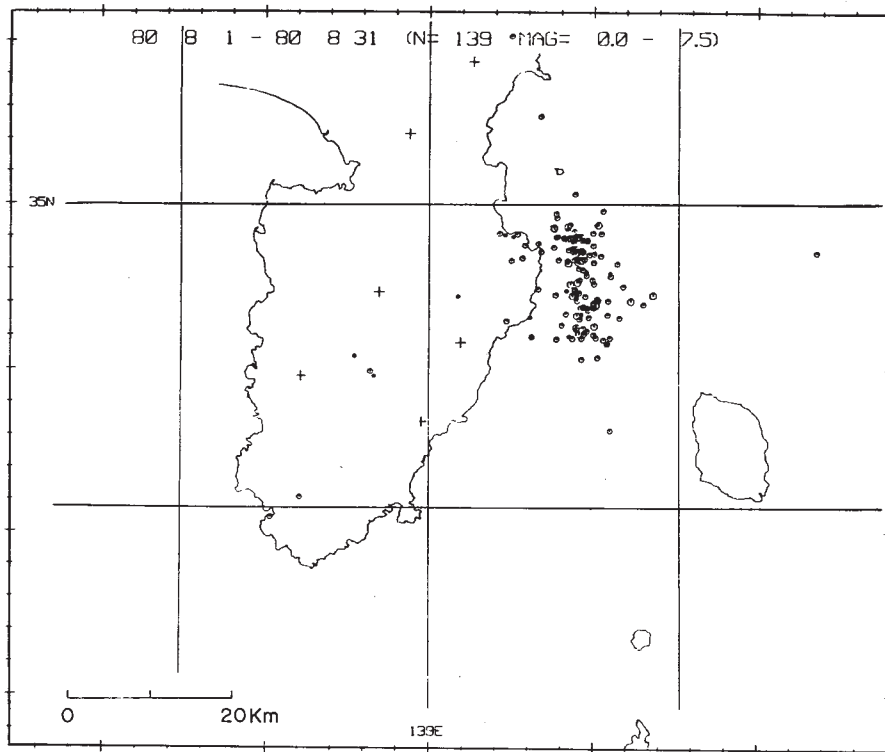
Fig. 2 Distribution of epicenters in June 1-22, 1980.



第 3 図 1980 年 6 月 23 日 - 30 日の震央分布図
 Fig. 3 Distribution of epicenters in June 23-30, 1980.

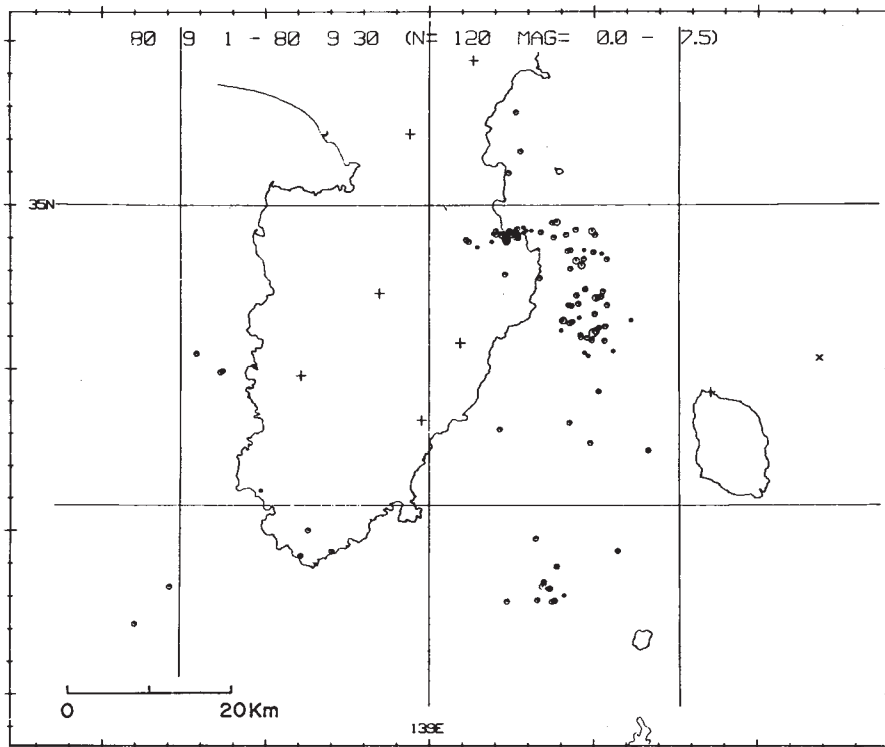


第 4 図 1980 年 7 月の震央分布図
 Fig. 4 Distribution of epicenters in July 1980.



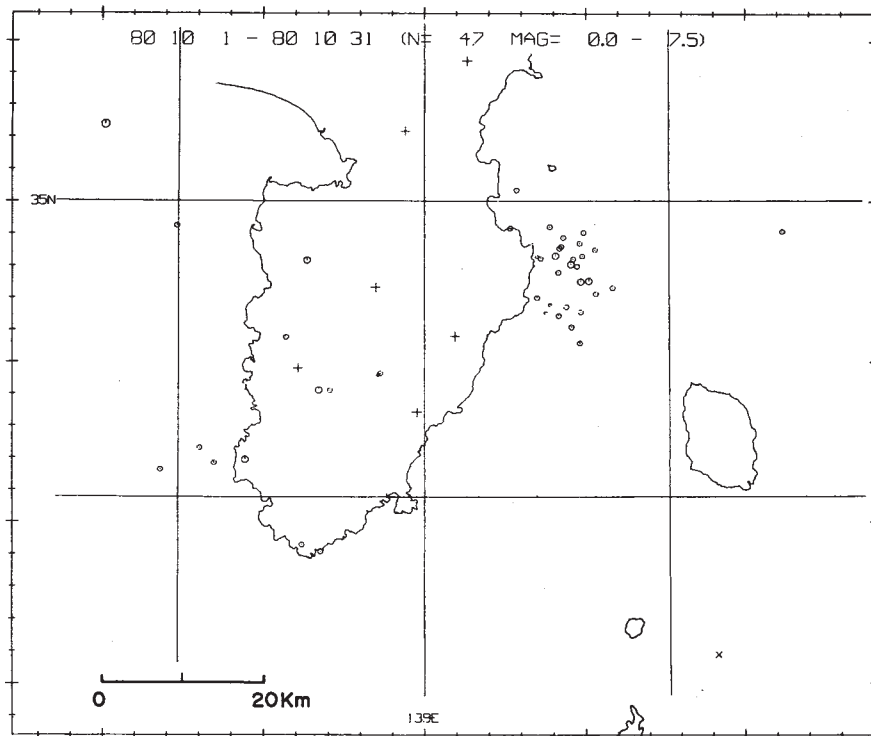
第5図 1980年8月の震央分布図

Fig. 5 Distribution of epicenters in August 1980.

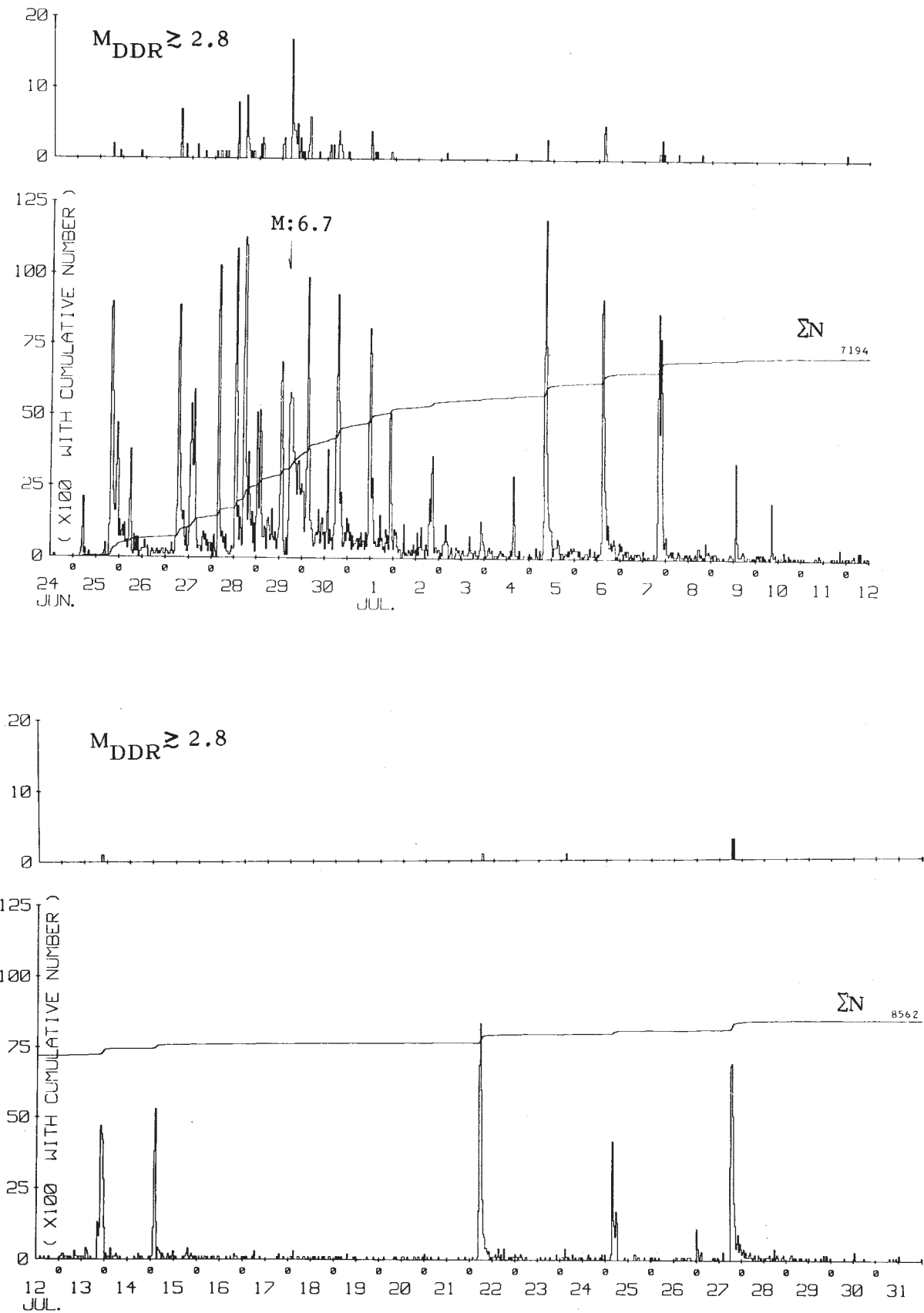


第6図 1980年9月の震央分布図

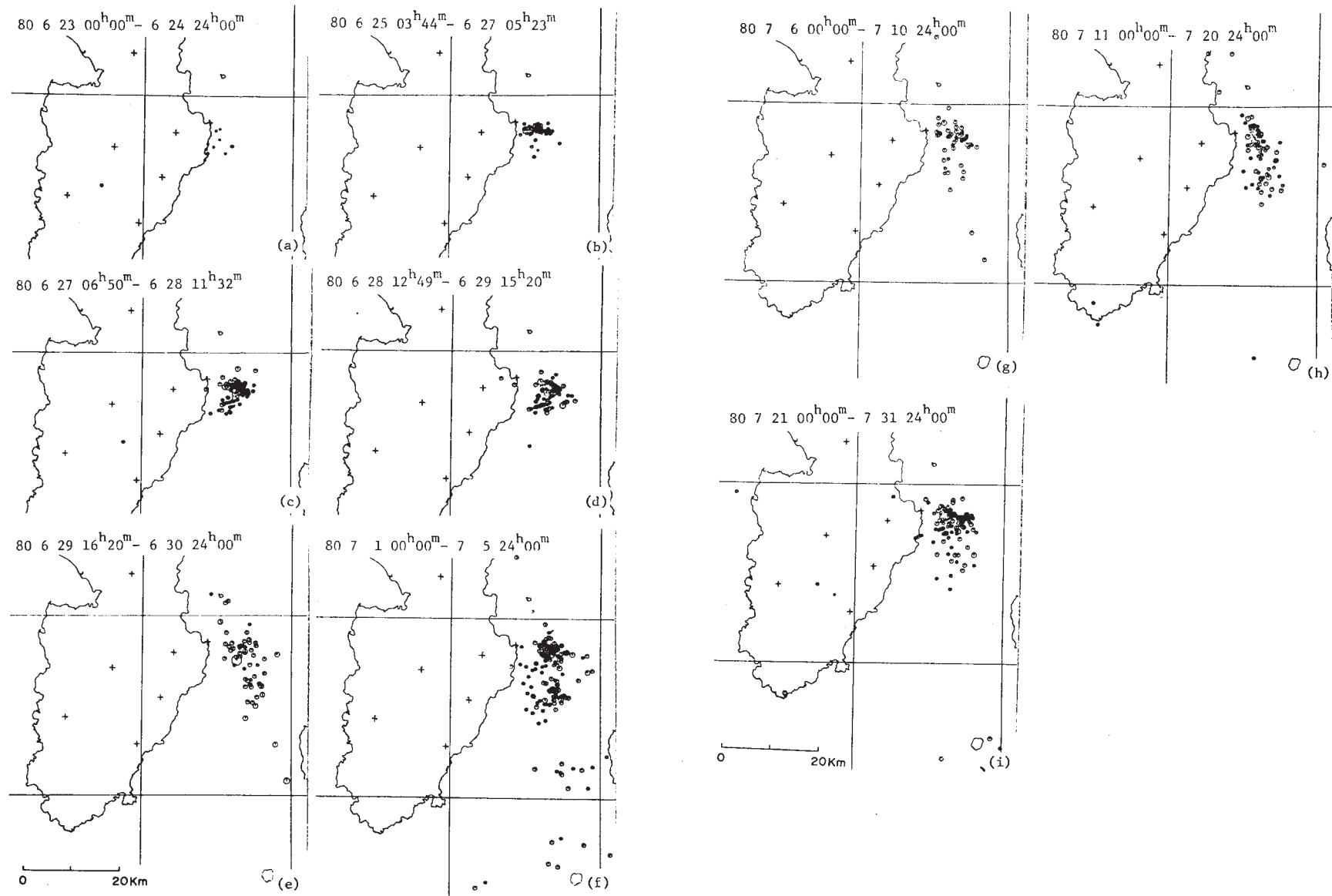
Fig. 6 Distribution of epicenters in September 1980.



第7図 1980年10月の震央分布図
 Fig. 7 Distribution of epicenters in October 1980.



第 8 図 大山 (OYM) における 30 分毎の地震回数とその積算回数の変化
 Fig. 8 Half-hourly number and cumulative number of earthquakes recorded at Ohyama (OYM) station.



第9図 伊豆半島東方沖の群発地震の期間別震央分布図

Fig. 9 Distributions of epicenters for successive periods of the earthquake swarm east off the Izu Peninsula.